教育目標
明るく思いやりのある子（きよく）
進んで学ぶ子（かしこく）
健康でねばり強い子（たくましく）

名幸方栄 氏を講師に「平和学習会」を開催

去る６月８日（金）３校時に松田区在住の名幸方栄 氏を講師にお迎えして、３・４・５・６年生を対象に「沖縄戦と私」と題して、平和学習会を行いました。

名幸さんは、小学校5年生の頃、戦争を体験しました。その頃、朝になると東の空から約40機の飛行機が飛んできて、機銃掃射を繰り返していたそうです。防空壕に急いで逃げようとすると、低空で迫り来る飛行機のパイロットが手を振る様子が見えたそうです。恐ろしいほどの機銃掃射をしながら、手を振ることができることにさらなる恐怖を感じたそうです。

防空壕に隠れていると、アメリカ兵がやってきて、火炎放射器で防空壕を燃やしたりもしていたそうです。さらに、防空壕の中で小さな赤ちゃんが泣き出し、敵に見つかってはいけないと、お母さんが「ごめんなさい。ごめんなさい。」とあやまりながら、わが子の泣き声が聞こえないように強く抱きしめたために、赤ちゃんは窒息死してしまったという悲しい出来事も日常のように起きていたそうです。

沖縄での地上戦が始まる前から、まわりの空も海もすっかりアメリカ軍に押さえられてしまって、武器弾薬や食糧の補給はできない状態となってしまいました。また、守備軍の兵力は、防衛召集によってもなお不十分だったため、県下の中等学校や女学校の生徒は学徒隊として、また各市町村の青年学校生徒や青年団の男女も動員され、鉄血勤皇隊・護郷隊・義勇隊・特志看護隊・救護隊という名で戦場に2,300人余が動員され、1,200人以上が戦死しています。

戦争中だけが苦しいのではなく、戦後も苦しみが続きました。食料がなく、桑の葉やちいちいぱっぱ（つわぶき）の茎を食べて飢えをしのぎました。さらに、中南部から、難民や捕虜になった人々が宜野座に押し寄せ、収容所にたくさん集まってきたそうです。その中には負傷したり、マラリアにかかったりと命を失う人も多くいたそうです。自分自身が生きていくだけで精一杯だったそうです。

「戦争は、罪もない人が尊い命を失っていきます。沖縄戦では20万余の方がなくなられました。平和は大事であり、平和であることの幸せを身にしみて感じながら、今を生きているのです。」とおっしゃって、名幸さんは、お話を終えました。

6月23日は慰霊の日。ぜひ、ご家族で慰霊の日のある意味について、お話してください。

写真１ 平和学習会の様子

写真２ 講師を囲んで

講師に対する児童のお礼状より

○ 私がせんそうの話を聞いて思ったことは、せんそうは、かんけいのない人までまきこまれるということです。
赤ちゃんや小さな子どもたちまでも殺されてしまうことがかわいそうだと思いました。
私がこれからとりくみたいことは、せんそうがなくなるように平和でけんかをあまりしないようにすることです。
あまり話したくない、つらいせんそうのお話をしていただき、ありがとうございました。 （3年 女子）

○ せんそうのときは、朝８時からひこうきがとんできて、てっぽうのたまをうったり、食べるものがなくて、やぎが食べるような葉っぱを食べたり、家がやねがわらでつくられていたりと、きびしい生活をして、たいへんだと思いました。
でも今は平和でだから、とてもいい生活だと思います。平和になった今は、また、せんそうがおきないようにみんなで、仲良くして、平和にくらしていきたいと思います。
名幸方栄さん、今日は、お話をきかせてくれて、ありがとうございました。 （3年 男子）

○ 今日、平和学習で学んだことは、国と国が争うことで、こんなにも多くの命が奪われてしまうのだと、あらためて知りました。でも、自分達の国が争いをやめれば、相手の国もやめるんじゃないかと考えました。
そんなに簡単にはやめられないかもしれないけど、ちゃんと話し合ってみることが必要だと考えました。
戦争は、世の中で一番やってはいけないことだと思うので、私は一生、やりません。 （6年 女子）

○ 名幸方栄さん、今日はお忙しい中、僕達のために松田小学校までいらしてくれて、ありがとうございました。
今日の平和学習でわかったことは、戦争中は食べるものがなく、桑の葉までも食べる苦しい生活をしていたことです。それに、朝から爆撃機が飛び、防空壕の中から出られずにいたこともわかりました。
これから僕達が戦争の恐ろしさを伝えていきたいです。今の平和を永遠に続けられるようにしていきたいです。 （6年 男子）